

令和3年度 事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

前年度に引き続き、新型コロナウイルスによるさまざまな影響を受けた一年となった。移動と接触が制限され、閉塞的な自粛が続き、こうした「ニューノーマル」な生活も、すっかり定着した感さえ見受けられた。

その中でも、新たに見直された「身近なみどりの大切さ」は、市民化、そして社会化しつつあることも事実である。Well-Being という言葉も広く使われるようになり、今後、ますます我々の職能を活かしていく必要がある。

また、Web の利用がすっかり身近なものとなり、Web による会議、あるいはセミナー等が多く開催され、定着した。

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会（以下、CLA という）は、ランドスケープの視点から身近にある公園緑地を活かしたライフスタイルの提案や、政策提案集団としての活動の展開を目指して、社会への訴求や関連する他団体との連携の強化、組織の強化と会員サービスの向上、等々について以下の各種事業を行った。

さらに、発注機関に対し、CLA ならびに会員各位の技術力を発揮できる環境をアピールしたことにより、横浜市における 2027 年国際園芸博覧会に関連する業務をはじめとする、各種調査業務を受注したことで成果を上げた。

1. 総務委員会

(1) 会員活用への具体的取り組み

「知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会」の幹事学協会の一員として、公共調達に関する法改正への取組の活動に参加した。その中で立ち上げた「知的生産者選定支援機構（自治体などがプロポーザルなどを実施する際のコンサルティングの仕組）」について各種協議などを行った。また、11 月には本件についてのシンポジウムに参加した。

(2) 事務局の見直し

前期までに行った定款改正を受けて、特に新しくなった「会員制度」「会費制度」が円滑に運用できるよう、事務局会議などで検討・チェックを行った。

(3) 会員企業への経営支援

期首に計画をしていた経営に関わるセミナーは、新型コロナウイルス感染拡大防止等の視点から実施を見送った。2 月に経営戦略セミナーを行い、国土交通省公園緑地・景観課の舟久保敏公園緑地事業調整官にご講演をいただいた。

2. 国際委員会

(1) R L Aの国際相互認証の検討、及び国際的な設計基準の把握

C L A R B^{*}とWeb 会議方式で情報交換・意見交換を行った。米国のランドスケープアーキテクトの資格とR L Aの協力関係のあり方などについて、今後も継続して協働で検討することとした。

(2) 国際的イベント等への協力

新型コロナウイルスの影響により、各種の国際的イベント等が見送り・延期となったため、特筆すべき事項はない。

※：Council of Landscape Architectural Registration Boards の略称で、アメリカにおけるランドスケープアーキテクト登録試験の実施と資格の管理運営を行っている機関

3. 業務委員会

(1) 発注機関への会員活用の働きかけ

発注機関に向け報酬積算ガイドライン、C L A journal 等の配布、造園技術職員向けの講習会や意見交換会の実施等、C L A及び会員のアピール等を行い、業務受注の促進を図る活動を行った。

(2) 「標準業務・報酬積算ガイドライン 令和3年版」の発行・検討

「2021年度版 ランドスケープコンサルタント業務における標準業務・報酬積算ガイドライン」を発行した。また、民間活力導入検討業務仕様書(案)作成に向けてのアンケート調査やヒアリング等を行った。

(3) C L A白書(年次報告書)の作成

会員の現状を正確に把握するため、会員から提出された経営状況や業務内容等のデータ整理を行い「C L A白書 2020年度版」を発行した。さらに白書を充実させるため、今後のアンケート内容の検討を行った。

4. 技術委員会

(1) ビジョンセミナーの開催

昨今の社会情勢の中で身近なみどりや公園の重要性が再認識されていることを踏まえて、「これからの小公園を考える（震災復興52小公園からヒントを探す）」を題材としたセミナーを企画し、Web配信により参加者間の意見交換を行った。

また、若手技術者の技術研鑽と交流を図る「パークマネジメントの今とこれからの考える」（千葉県蘇我スポーツ公園での取組）を題材としたセミナーの企画・準備を行った。

(2) 技術セミナーの開催

C L A賛助会員等の技術を紹介するセミナー「未来を描く公園の取組」と「アフターコロナに役立つ新製品の紹介」をWeb配信により開催し、多くの会員等が受講した。最新のパークマネジメントとインクルーシブデザインの取組及びコロ

ナ禍の公園利用をサポートする製品を紹介し、活発な質問・意見等が寄せられた。

(3) C L A賞の運営

C L A賞表彰委員会として予備審査を実施し、選考委員会の準備を行った。受賞作品を広く発信するために、一造会との共催による「合同表彰式・発表会」を運営開催し、表彰と発表をWebにより配信するとともに、受賞者と参加者のセッションによる双方向の研鑽の場とした。また、東京農業大学等の大学と連携して学生に発信を行った。

(4) 研修・講習等のセミナーの検討・支援

造園C P Dプログラムの認定を受けた前記の研修・講習等を企画検討し、運営及びWeb配信を行い、支部活動を支援した。令和2年度から取り組んでいる「ニューノーマルに向けた公園の活用」を題材にしたセミナーの成果をまとめ、ビジョンセミナーで紹介した。

また、C L A賞選考委員会の意見を反映して、次年度のC L A賞応募要綱を検討した。

(5) 関連他団体との連携

(一社)日本造園建設業協会主催の全国造園デザインコンクール及び(公財)都市緑化機構編集委員会、一造会大賞選考委員会への委員の派遣を行い、「合同表彰式・発表会」を共同で開催するなど、関連他団体との連携を図った。

また、若手技術者の研鑽機会の充実に向けて、自治体及び関連団体等と協働して企画を行った。

5. R L A資格制度運営委員会

(1) R L A資格制度の適正かつ円滑なマネジメントの推進に関する活動

- ・2021年6月1日～7月15日において受験の受付を行い、R L A受験者150名(2019年96名)、R L A補受験者188名(2019年113名)の申し込みがあった。
- ・2021年9月26日に札幌、東京、大阪、福岡の4会場において認定試験を実施し、十分なコロナ対策により、感染者の報告もなく無事に終了した。
- ・2023年度より、一次(択一)試験のC B T(Computer Based Testing)試験実施に向け準備を進めた。本委員会内に分科会(八色宏昌委員長)を設置し、2ヶ年計画で準備を進めることとした。

(2) R L A資格制度の普及と資格保有者の増大に関する活動

- ・コロナ禍においてR L A資格制度の普及や資格保有者の有効活用に向けて、行政機関・企業へのP R活動は十分ではないものの、大学4校(千葉大、農大、京都芸術大学、西日本短大)への説明会を実施した。

(3) R L A資格制度(指定学科)の一部見直し

- ・本年度より新たな指定学科で受験者を受け付けた。
- ・本年度卒業者を対象に、R L A補資格特別認定学科を設け、周知を行った。

(4) 関連団体との連携

- ・ J L A U の R L A 資格試験の受験対策セミナーの支援を行った。
- ・ R L A 資格の国際相互承認に向けた取組を推進（C L A R B との連絡：国際委員会が対応）。

(5) 造園 C P D 制度の普及啓発

- ・ 「造園 C P D 単位セミナー」を 6 月 30 日に開催し、昨年度新規登録者を中心に 23 名が参加した。
- ・ 「R L A 資格登録更新講習会」を 3 月 1 日に開催し、R L A 資格保有者並びに失効者等の 36 名が参加した。

(6) その他

- ・ 本年度においては 6 名の R L A フェローを認定し、Web による授与式を行った。

6. 広報委員会

(1) 広報誌「C L A journal」No.182 の企画・発行

企画特集として、C L A 賞受賞作品の紹介とともに、「ランドスケープ整備・管理運営の新たな潮流においてランドスケープコンサルタントに期待される役割」を取りまとめ、掲載した。

(2) 第 2 回ランドスケープフォーラムの開催準備

「民間事業者の力によって進化する公園」をテーマとした第 2 回ランドスケープフォーラムの企画・準備を進め、令和 4 年 4 月に Web 方式により開催することとなった。

(3) その他

ホームページの運営、支部広報活動の支援などを行った。

7. 2025 大阪・関西万博特別委員会

「2025 年日本国際博覧会基本計画」について、関西支部に所属する委員が中心となって、ランドスケープの立場から 2025 大阪・関西万博へ提案を行い、万博を成功へ導くことを目的とし、学識者と連携して活動を行った。

8. 公園樹木長寿命化技術研究特別委員会

令和 3 年 10 月 1 日に本特別委員会が発足し、学術・行政・関係団体・民間等の有識者から構成される第 1 回委員会を 11 月に開催した。委員会提案による活動を実行・推進するためのワーキングチームを 12 月と 2 月に開催し、各支部長を介して会員各社に公園樹木長寿命化の技術指針の基礎となる、自己点検シート作成の協力を要請した。

9. ランドスケープ経営研究会（略称：L B A）

2021 年度もコロナの影響で活動を制約されたが、一時的ではあるが秋口にはコロ

ナも落ち着き、少しずつ活動を取り戻した。その後オミクロン株の急速な感染の拡大はあったものの可能な限り活動を続け、Web を活用した部会報告会やフォーラム、サロンを開催した。ただし、人的直接交流の場や機会を設けるまでにはいたらなかった。

部会活動も同様の状況にはあったが、部会2(パークファンド部会)は定期的に会合し、パンフレットという具体的成果を示すこともできた。また、部会横断連携によるさいたま市のアイデアコンペに応募し優秀賞を得たほか、松戸市のサウンディングへの応募なども行った。

そのほか、関連団体との連携、造園学会の研究推進委員会への参加、毎月のメルマガ発信など従来からの活動は継続した。

10. 支部活動

(1) 北海道支部

第39回全国都市緑化北海道フェア実行委員会の委員である北海道支部長を中心に、前年に引き続き令和4年開催の北海道フェア「ガーデンフェスタ北海道2022」の成功に向け協力した。さらに、6月に行われる庭園出展コンテスト審査員としても北海道支部長の派遣要請があり、快諾した。

(2) 東北支部

復興事業への提案、関連団体との連携等に努めるとともに、CLAの会員名簿やガイドラインを活用した広報活動を積極的に行い、会員の活動拡充を行った。

(3) 関東支部

支部会員向けの技術研修・セミナーとして「公園樹木の長寿命化計画」に関する3回の特別セミナーを開催し、本部特別委員会の発足に尽力した。今後もワーキングチームの運営に関わり、円滑な作業に協力する。

東京2020オリンピック・パラリンピック関連の活動として、花と緑のサマーガーデンに参画し、アートガーデン、おもてなしガーデンの3区画の花壇デザインを行った。

(4) 中部支部

中部地整や愛知県・名古屋市などの発注機関や関連団体との連携によるランドスケープセミナー2021を開催し、会員の技術研修支援を図った。また、こうした活動を通じて支部組織や支部広報の充実に努めた。

(5) 関西支部

支部広報誌「ランドスケープカンサイ」の発行や支部ホームページ等による広報活動を行った。また、大阪府ならびに(公財)国際花と緑の博覧会記念協会との共催により、第10回みどりのまちづくり賞(大阪ランドスケープ賞)を開催し、これまでの受賞者との意見交換の模様などを記念誌として取りまとめた。

2025大阪・関西万博特別委員会の関西ワーキンググループとして、前年度に引き続き(公財)2025年日本国際博覧会協会と意見交換を行った。

(6) 九州支部

関連団体との交流や活動協力と、福岡市が主催する行事等への参加協力を行った。(公社)日本造園学会九州支部大会熊本大会においては、後援とともに学生交流企画の開催支援を行った。また、毎月1回「福岡のランドスケープを頑張りたい人の同好会」を開催し、学生・行政・緑関係企業職員の技術研修・交流の場を提供し、2月で100回となった。